

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

14

活動を支える
互助の仕組み

想いを預かる

特定非営利活動法人
志免地域支え合い互助基金

右)下稲葉 圭一(しもいなば しゅいち)
左)吉村 和也(よしむら かずや)

地域で困っている方々を『ほっとけない』想いで支える活動をしている互助団体を継続的に支援する仕組みを確立し、住み慣れた場所で人生最後まで安心して暮らせる町づくりに貢献することを目的に活動している。



志免西地域から町内全域へ！ 活動者を支援する仕組み

2018年7月21日にNPO法人の設立式をしました。それ以前に「志免西・地域協働ネットワーク」という団体が志免西小校区で発足していました。

これは、町内会の中に解決しにくい課題が増えており、例えば孤独死や引きこもりの問題などですが、どうやってこの課題に取り組めばいいか、また町内会の運営上の課題についても、お悩みや相談が寄せられたことから起こったネットワークです。

問題解決のためには、町内会の枠を超えて取り組むネットワークが必要ではないか、同時に、地域の医療・介護に携わる栄光会と一緒にできることはないかと考え始めました。その考えに賛同してくださった、地域の皆さんと一緒に勉強会を重ねる中で「お互いさまで支え合える」関係の構築が必要であるとわかってきました。さらに、課題に対してどう動くのかを考えると、町内にはすでに活動されている方がたくさんいるけれども、その活動は手弁当、自己犠牲の上に成り立っていて、活動の継続が

困難であると感じているとわかりました。

そこで、今ある活動や、これから始めようとする活動者に対し、コーディネートや資金面で支える仕組み、活動を生み出すためのネットワークや基金があったら良い循環になり、地域での活動を推進していけるのではないかと思います。

まずは「志免西・地域協働ネットワーク」として始めた活動を、志免町内全域に広げていき、志免町に密着した基金にしていこうと、法人の名前は「志免地域支え合い互助基金」となりました。

コロナ禍における 互助活動の変化と新しい挑戦

基金の事業の柱は、互助活動助成事業、広報啓発事業、互助活動コーディネート事業の3つです。

それらを支える原資は、活動に参加はできないけれど気持ちを届けたい方からの賛助会員会費や寄付から成り立っています。

互助活動助成事業は寄付をしっかりと活動者に届けるという活動で、当初、上限30万円の助成でスタートし、その後、3万円からの小口助成を設けま

した。実績がなくてもやりたい気持ちを応援できる仕組みとして実施しています。

申込みをいただいたら、助成検討委員会で、活動への想いや現在の活動を話していただき、委員から質疑応答も実施した後、理事会の方で支援を決定していく流れです。申請から決定まで時間をかけず、小回りの利いた活動を支援できるようにスピード感をもって審査に取り組んでいます。

これまで、困ったときは「ほっとけない」想いで活動する団体、志免町で活動する団体、志免町に拠点のある団体に支援してきました。実績がまだない団体には、サポート付きで支援を行います。コロナ禍では活動自体が止まり、相談は少なかったですが、基金のコーディネート事業として、体制作りの支援を行い、実際の助成に繋げていました。

寄付の集め方では、支援自動販売機の設置も実施しています。皆さんに知っていただく広報活動としても、自販機の役割は大きいです。会社や個人の方に、貯金箱の設置をお願いしたり、町内のお店にシールを寄付としてお買い上げいただき、商品に貼る、配るなどで広報にも一役買っていたりなど、様々なツールを持ち、アイデアをもらいながらチャレンジを続けています。



志免町の子育て世帯の方に まずは互助基金を知ってほしい

広報啓発事業は無料ホームページなどを活用し、情報誌も手作りでお金をかけずに、工夫を重ねてきました。コロナ禍以前は公民館に訪問し、日本の高齢化やご近所関係の希薄化の問題、町内会独自の課題に合わせた支え合いや助け合いについてなど、課題解決方法を一緒に考えて話し合う活動が、広報活動となり、賛助会員が増えていました。

コロナ禍で集まるのが難しくなった今、広報アドバイザーに吉村さんを迎え、ホームページの刷新、勉強会をオンラインでも発信するなど、新たなツールを使って発信していこうと考え中です。

現在の賛助会員は、77会員(個人・団体)。年齢層は70歳以上が中心です。若い世代(30~40代)、特に志免町の子育て世代に参加してほしいです。



シンボルマーク作成と新聞部発足 ネットワーク構築を目指して

2020年に子どもたちに支え合いについて考えてもらうきっかけになればと、町内の中学校に相談しシンボルマークを作る活動を行いました。800通の応募があり、子どもたちの志免町に対する想いも知りました。活動を通じて志免町の中学生が参加したら、親世代の参加にもつながるのではないかと考えました。また、2021年度に志免中学校で新聞部を発足しました。これは、中学生に地域とのつながりを学んでほしいと考える学校と想いが一致し、2・3年生7名と、地域の方が一緒に新聞を作る取り組みに発展した活動です。新聞部の活動を推進するため、いろいろなツールの活用を検討しています。

社会の流れもWithコロナと少子高齢化社会が複雑に絡み合い、人と人とのつながりの大切さが再認識されています。また、世代ごとに情報を得て活用するツールが違中、ネットワーク化を推進するには、世代をつなぐツールを活用する事が必要です。

年をとっても地域で暮らす、誰かが自分を見守ってくれる、安心感が得られるような地域を目指し、新たな互助活動を応援していく。想いをお金でお預かりする基金ですから、志免町に暮らしてよかったと思える風土づくりを醸成していきたいです。



取材を終えて

活動を始めるときのコーディネートや継続のための資金を、基金という仕組みで支える活動を知ることができました。お互い様の互助活動が、これからの暮らしの安心へと繋がると良いですね。

